



第11期の学生54人（新入生17人）のうち、42人の学生が出席しました。佐藤学長が激励の言葉を贈りました。

「協働のまちづくり」人材育成へ

地域の活力に「千年の学校」 第11期開講式を挙行

今年で11年目を迎えた千年の学校。4月22日に、第11期開講式を山村開発センター大会議室で挙行了ました。6月30日と7月1日にはまちづくりフォーラムが開催されます。

基礎講座と専門講座

全員で学ぶ基礎講座を始め、選択制の「ふるさと山の暮らしコース」「田舎のものづくりコース」「未来につなげる文化コース」から成る3つの専門講座があります。

佐藤公敏学長は「千年の学校は皆さまの手で創り上げていく学校です。皆さまが楽しく学んでいただければ、町の活性化につながり、この町を元気にする活力となります。頑張ってください」と激励の言葉を贈りました。

新入生を代表して山下良子さん（八中）は「新たな出会いを大切に、地域の活性化につなげるお手伝いをしていきたい」と抱負を述べました。

まちづくりフォーラム

今年の目玉は6月30日と7月1日に開催される『まちづくりフォーラム』若者に学ぶ』。これは学校創設の契機ともなった「1000年の学校 in 南アルプス」を思い出させるような仕掛けを考案中とのことで、開催が待ち遠しい。詳しくは事務局の本町観光協会 ☎(59)2746まで。

千年の学校とは…

【学校創設の契機】

日本上流文化圏会議「1000年の学校 in 南アルプス」山梨県早川町で提唱され始めた、日本上流文化構想を踏まえたまちづくりを考える全国大会の第3回目。全国から200名に及ぶ参加者が集い、山村に生きる技の伝承者を仙人と名付け、あすを担う子どもたちも参加し、学習、体験とともに熱い討議を重ねた会議。

【なぜ千年か】

1999年7月に開催された、この仙人から学ぶ学校。当時は2000年を目の前に世はミレニアムイベントにあふれていたそんなとき、新たな世紀に入ることから1000年の学校という名がひらめいたのだと言う。後に2年の準備を経て、2001年10月に誕生したのが「千年の学校」である。

【千年の学校が目指すもの】

3つのキーワード「地域を深く知る（＝人づくり）。地域をみがくこと（＝魅力づくり）。地域を発信すること（＝活力づくり）」が連携する、地域づくりの循環プログラムの形成である。



受講後にサポーターの証である、ブレスレット（オレンジリング）が配られ、認知症への理解を深めました。

社会や地域の皆さんの理解と気遣いで暮らしやすい地域に

認知症サポーター養成講座 事業者の皆さま向けに開講

認知症サポーター養成講座を4月27日、
商工会女性部の皆さんを対象に開講しました。
お店での対応方法やサポーターとしての接し方を学びました。



100万人キャラバン

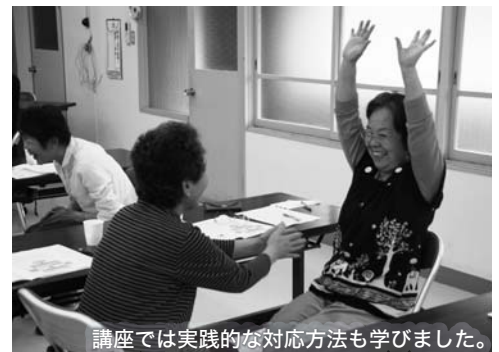
当事業は平成18年に厚生労働省が呼びかけ始まったものです。現在は「認知症サポーター100万人キャラバン」を実施しており、全国で100万人のサポーターを養成することを目標に取り組んでいます。

本町では、地域包括支援センターと社会福祉協議会と合同で養成講座を開催しています。いままでに町内中学生や川高生を対象にサポーターを養成しており、今回、商工会の協力を得て事業者の皆さま向けに開催しました。

講座では、DVDを見て、まず認知症について理解を深め、その後、池本保健師による講話から学ぶという内容でした。講座は約90分でしたが、参加者の皆さんは、今後のお店での対応方法やサポーターとしての接し方を質問するなど熱心に受講していました。受講後にはサポーターの証である、ブレスレット（オレンジリング）が配られました。

他人事ではない現実

現在の認知症患者は85歳以



講座では実践的な対応方法も学びました。

上では4人に1人いると言われており、誰にでも起こりうる脳の病気です。これからさらに高齢化社会を迎えていくに当たり、他人事では済まずことのできない現実です。

しかし、社会や地域の皆さんの理解と気遣いがあれば、差別や偏見がなくなり、真に暮らしやすい、支えあう地域社会が構築できます。

本町においても「1000人」を目標に取り組んでいますが、皆さまのご理解のおかげで既に1053人ものサポーターが誕生しています。サポーターの証である、ブレスレット（オレンジリング）をつけている町民が増え、支えあう輪ができるようになる、いいですね。



this month
HighLight
2
今月の注目